

厚生労働科学研究費補助金（免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 移植医療分野）
分担研究報告書

「ドナー家族精神的ケアのためのデータベース構築」

研究分担者 藤堂 省 北海道大学 名誉教授、聖マリア病院 研究所長

研究要旨

脳死下・心停止後臓器提供において、ドナー家族が短期・長期的に直面する問題点の明確化を目的としたデータベースを構築した。臨床心理士との直接面談形式を採用し、身体的問題点、精神的問題点、心理的問題点、社会的問題点、臓器移植への理解や対応に関する問題点に大きく分類しデータベース化した。窓口の開設について、まず生体ドナーへの周知から開始し、その後に2種類のポスターで一般に周知し、さらに日本臓器移植ネットワーク経由で心停止後・脳死ドナー家族に直接案内した。これまでに8件のコンタクトがあった。連絡先の周知範囲から最初の3件は生体肝移植・腎移植ドナーからの連絡であったが、身体的問題とレシピエントの死亡に起因した精神的な悩みが打ち明けられた。残る5件は一般からの臓器提供に関する質問であった。コンタクト数からみて脳死・心停止後ドナー家族や生体ドナーが抱える精神的問題点を十分に発掘したとは言い難い。コンタクトのないことイコール問題なしと判断するのは時期尚早である。今後、運用方法の工夫により相談数が増加すれば、ドナー家族や生体ドナーの精神的問題点が明確化され、わが国の移植医療が歩むべき方向性に示唆を与えられると思われる。

A．研究目的

臓器提供の現場では、ドナー家族は十分な準備もないままに短期間でドナーの死を受け止め、臓器提供の決断を迫られる。法改正以前は臓器提供意思表示カードによるドナー本人の意思表示が必須であったため、ドナー家族はその意思を参考に臓器提供の決断をすることができた。しかし、法改正により本人意思不明の場合でも臓器提供が可能となったことから、切迫した状況の中で家族がその判断をしなければならない状況が発生する。事実、法改正後の臓器提供の約7割は本人意思不明のまま家族の決断によって実施されている。このことは提供後の時間経過と共に決断の妥当性に家族が悩むことを招きしめる。昨今、脳死や臓器提供について以前よりも社会に浸透した感があり（世論調査結果から）さらに健康保険証や運転免許証への意思表示も進んでいることから、将来的にはこの問題が軽減される可能性がある。しかし、脳死・心停止後ドナー家族のみならず生体ドナーに対する長期的かつ継続的な精神的ケアは移植医療の発展に不可欠であり、相談窓口の開設と問題点の蓄積（データベース化）・解析が

らなる体制整備が必要である。

B．研究方法

臨床心理士会の協力を得て、直接面談の形式で脳死・心停止後ドナー家族や生体ドナーが抱える悩みについてデータを集積する方法をとった。相談窓口の情報はまず生体肝移植ならびに腎移植ドナー（肝移植は北海道大学での実施症例、腎移植は北海道内6施設での実施症例）に郵送で伝えると同時に医療機関における2種類のポスター掲示で周知した。さらに、日本臓器移植ネットワーク内の相談窓口開設に伴い、ネットワーク経由でこれまでのドナー家族に独自のパンフレットでアナウンスした。相談内容はWeb上にDABを構築し、セキュリティを確立したハードディスクにデータを集積した。保存内容として相談者のID番号、相談日、提供の種別と関係（生体移植の場合はレシピエントとの関係、脳死下もしくは心停止後提供の場合はドナーとの関係）、ドナー年齢、生前に提供意思表示がなされていたか否か、提供に至った経緯、提供前に家族内での話し合いがあったか否か、提供後相談までの期間を基本的事項とし、相

談内容については大きく身体的問題点、精神的問題点、心理的問題点、社会的問題点、臓器移植への理解や対応に関する問題点に大きく分類した。各項目をキーワード化し、のちの検索が可能となるシステムとした。データベースへは実際に面談した臨床心理士が入力と解析の権限を持ち、管理者はすべての情報にコンタクトできるのみならず、臨床心理士一覧の管理、各種項目の追加、削除、編集が可能なる形とした。臨床心理士会の会報でも上記の取り組みが取り上げられ、より詳細な対応方法が議論された。

C . 研究結果

Web 上に十分なセキュリティを持つデータベースが構築された。これまでに 8 件のコンタクトがあった。連絡先の周知範囲から最初の 3 件は生体肝移植・腎移植ドナーからの連絡であったが、身体的問題とレシピエントの死亡に起因した精神的な悩みが打ち明けられた。これらの内容についてはデータベースに既に集積されている。残る 5 件は一般からの臓器提供に関する質問であった。

D . 考察

臓器提供に関わる精神的ケア窓口を開設し相談内容を蓄積・解析するデータベース

を構築した。しかし、脳死・心停止後ドナー家族や生体ドナーが抱える精神的問題点を詳細に発掘する為にはその運用に工夫が必要である。相談事項がなくコンタクトに至らないのであれば問題はないが、相談のないことイコール問題なしと判断するのは時期尚早と考えるためである。今後、相談数の増加による問題点の集積がなされれば臓器提供・臓器移植に関わる精神的側面が明らかになるであろう。

E . 結論

十分な周知がなされ相談数が増加することで、ドナー家族や生体ドナーの精神的問題点がより明確化することが予想される。さらに集積されたデータの解析により、わが国の移植医療が歩むべき方向性が決定されるであろう。

F . 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

G . 知的財産権の出願・登録取得状況（予定を含む）

- 1 . 特許取得 なし
- 2 . 実用新案特許 なし
- 3 . その他 なし